

令和6年12月10日
統計部公表

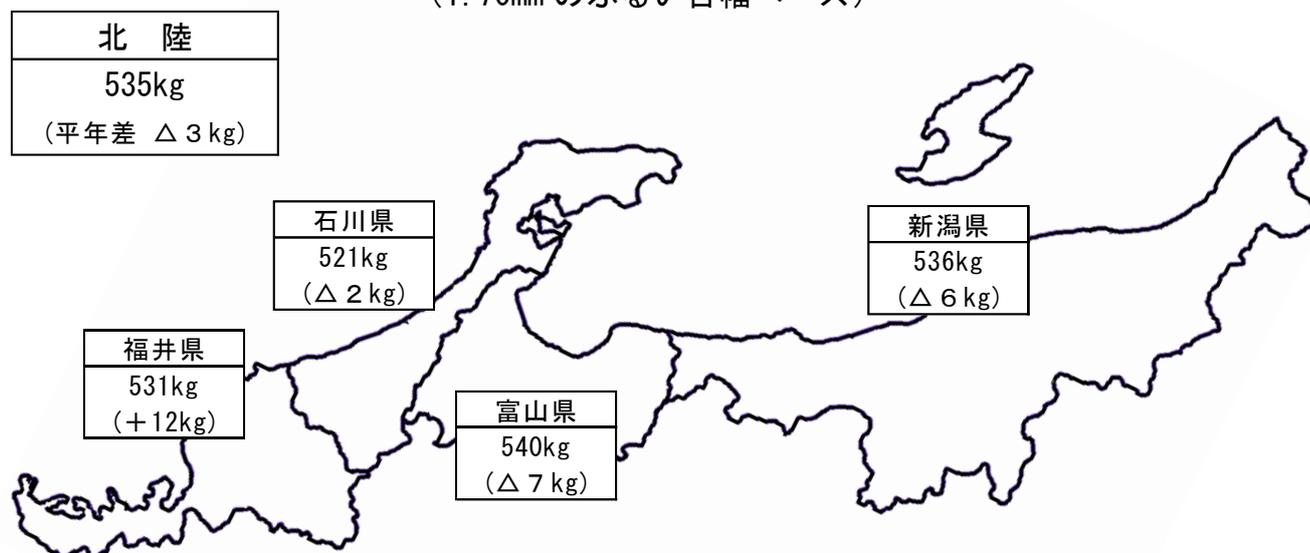
作物統計調査 令和6年産水稻の収穫量（北陸）

— 収穫量（子実用）は105万3,000 t で、前年産に比べ3万8,000 t 増加 —

【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稻の作付面積（子実用）は19万7,000ha（前年産に比べ700ha減少）となった。うち主食用作付面積は17万5,800ha（前年産に比べ1,800ha増加）となった。
- 2 10 a 当たり収量は535kgとなった。
- 3 以上の結果、収穫量（子実用）は105万3,000 t（前年産に比べ3万8,000 t 増加）となった。このうち、主食用の収穫量は93万8,800 t（前年産に比べ4万4,800 t 増加）となった。
- 4 なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は99となった。

図1 県別10 a 当たり収量
(1.70mmのふるい目幅ベース)



- 水稻の作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積であり、主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70 mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

◎累年データ

水稻の年次別推移（北陸）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	子実用	子実用					
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 26 年産	215,500	212,500	536	1,139,000	190,000	1,019,000	100
27	214,100	207,800	531	1,104,000	184,100	977,800	99
28	213,400	205,600	567	1,165,000	182,100	1,031,000	107
29	212,500	204,100	529	1,079,000	180,100	952,100	98
30	212,700	205,600	533	1,096,000	184,800	985,300	98
令和 元	212,800	206,500	540	1,115,000	186,400	1,007,000	101
2	212,300	206,400	550	1,135,000	185,900	1,021,000	102
3	211,500	201,800	531	1,072,000	177,900	944,600	97
4	209,900	198,200	541	1,072,000	173,500	938,800	100
5	208,300	197,700	513	1,015,000	174,000	894,000	97
6	205,300	197,000	535	1,053,000	175,800	938,800	99
対前年差	△ 3,000	△ 700	22	38,000	1,800	44,800	2

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。
- 2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 4 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、以下により算出している。
 平成26年産：1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出。
 平成27年産から令和元年産まで：北陸地域で過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅で選別された玄米を基に算出。
 令和2年産以降：県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出。

水稻の年次別推移（新潟県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	子実用	子実用					
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 26 年産	121,700	120,100	547	656,900	105,300	576,000	101
27	121,300	117,500	527	619,200	102,400	539,600	97
28	121,300	116,800	581	678,600	101,500	589,700	108
29	120,900	116,300	526	611,700	100,300	527,600	96
30	121,500	118,200	531	627,600	104,700	556,000	95
令和 元	121,900	119,200	542	646,100	106,800	578,900	100
2	121,800	119,500	558	666,800	106,700	595,400	103
3	121,400	117,200	529	620,000	101,800	538,500	96
4	121,100	116,000	544	631,000	99,900	543,500	99
5	120,400	115,800	511	591,700	100,600	514,100	95
6	119,800	116,200	536	622,800	101,400	543,500	98
対前年差	△ 600	400	25	31,100	800	29,400	3

◎累年データ（続き）

水稻の年次別推移（富山県）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	子実用	子実用					
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 26 年産	40,200	39,500	541	213,700	35,700	193,100	101
27	39,500	38,600	559	215,800	34,200	191,200	103
28	39,300	38,100	566	215,600	33,800	191,300	106
29	39,100	37,600	546	205,300	33,300	181,800	100
30	38,900	37,300	552	205,900	33,300	183,800	102
令和 元	38,900	37,200	553	205,700	33,300	184,100	102
2	38,900	37,100	556	206,300	33,200	184,600	103
3	38,700	36,300	551	200,000	32,200	177,400	99
4	38,100	35,500	556	197,400	31,300	174,000	101
5	37,800	35,200	528	185,900	31,200	164,700	98
6	37,400	35,000	540	189,000	31,200	168,500	99
対前年差	△ 400	△ 200	12	3,100	0	3,800	1

水稻の年次別推移（石川県）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	子実用	子実用					
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 26 年産	27,000	26,600	508	135,100	24,300	123,400	98
27	26,700	26,100	522	136,200	23,600	123,200	101
28	26,400	25,600	534	136,700	23,200	123,900	104
29	26,100	25,300	519	131,300	23,200	120,400	99
30	25,800	25,100	519	130,300	23,200	120,400	100
令和 元	25,600	25,000	532	133,000	22,700	120,800	102
2	25,400	24,800	530	131,400	22,600	119,800	101
3	25,200	23,800	527	125,400	21,400	112,800	101
4	24,900	23,100	532	122,900	20,700	110,100	101
5	24,600	23,400	518	121,200	20,800	107,700	100
6	22,900	22,300	521	116,200	21,200	110,500	99
対前年差	△ 1,700	△ 1,100	3	△ 5,000	400	2,800	△ 1

水稻の年次別推移（福井県）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	子実用	子実用					
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 26 年産	26,600	26,200	510	133,600	24,700	126,000	98
27	26,400	25,600	518	132,600	23,900	123,800	99
28	26,300	25,100	535	134,300	23,600	126,300	104
29	26,300	24,900	525	130,700	23,300	122,300	101
30	26,400	25,000	530	132,500	23,600	125,100	101
令和 元	26,400	25,100	520	130,500	23,600	122,700	100
2	26,200	25,100	518	130,000	23,300	120,700	99
3	26,100	24,500	515	126,200	22,500	115,900	99
4	25,700	23,500	515	121,000	21,600	111,200	99
5	25,500	23,300	500	116,500	21,500	107,500	98
6	25,200	23,500	531	124,800	21,900	116,300	102
対前年差	△ 300	200	31	8,300	400	8,800	4

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（11ページ【参考1】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として、ふるい目幅別重量割合並びにふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりである。

表 1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（北陸）

単位：%

年 産	計	1.70mm以上	1.75	1.80	1.85	1.90	2.00mm
		1.75mm未満	～1.80	～1.85	～1.90	～2.00	以上
令和 元 年産	100.0	0.5	0.9	1.2	2.0	12.0	83.4
2	100.0	0.5	1.0	1.3	2.1	12.0	83.1
3	100.0	0.9	1.4	1.6	3.1	16.1	76.9
4	100.0	0.9	1.2	1.4	2.6	13.1	80.8
5	100.0	0.4	0.6	0.9	1.9	10.1	86.1
6	100.0	0.9	1.3	1.5	2.8	13.2	80.3
平均値	100.0	0.6	1.0	1.3	2.3	12.7	82.1
対平均差(ポイント)	0.0	0.3	0.3	0.2	0.5	0.5	△ 1.8

注：1 ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である（以下同じ。）。

2 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

表 2 ふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（北陸）

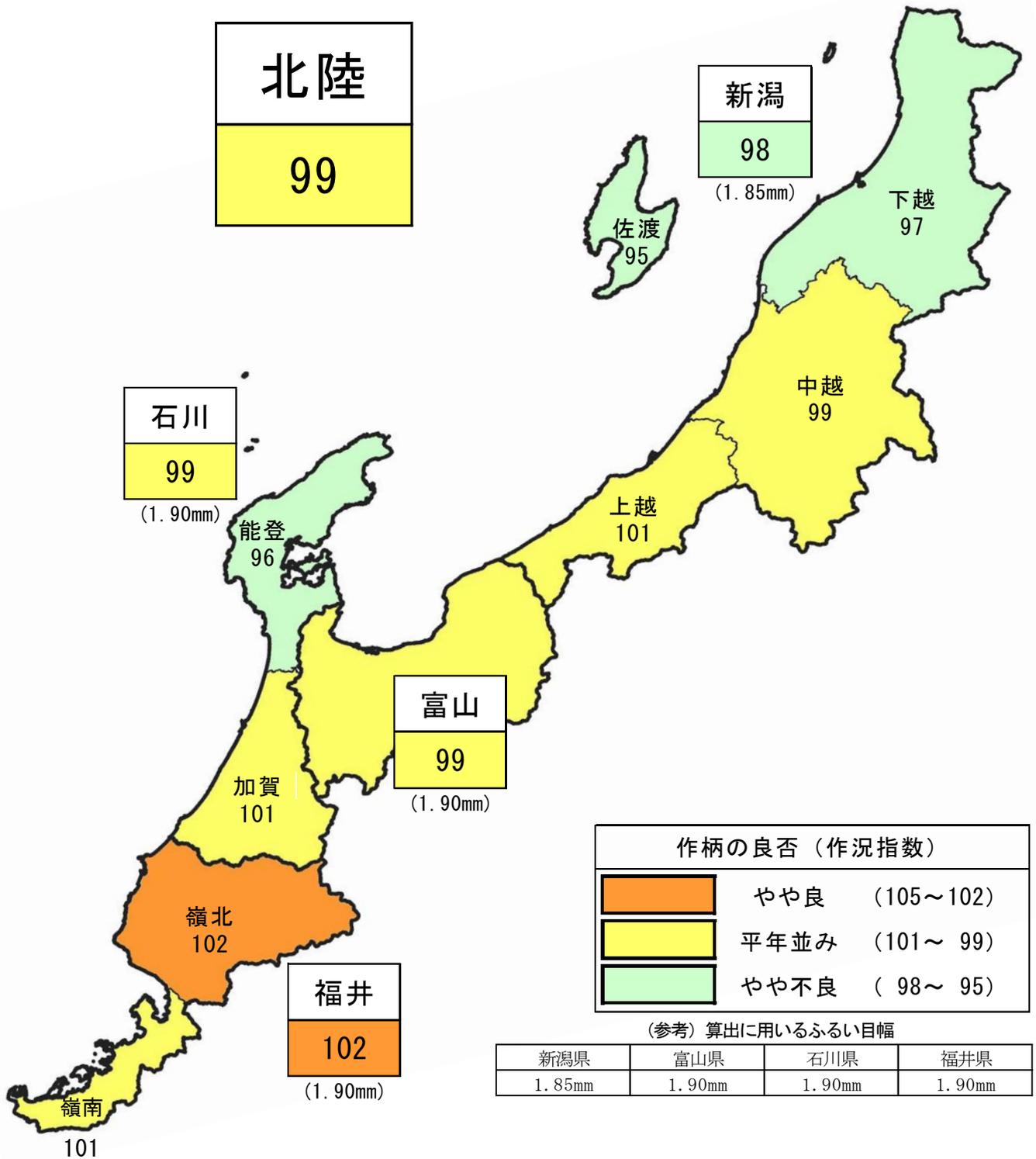
年 産	単位	1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm	
		以上	以上	以上	以上	以上	以上	
令和 元 年産	10a 当たり収量	kg	540	537	532	526	515	450
	収穫量	t	1,115,000	1,109,000	1,099,000	1,086,000	1,064,000	929,900
2	10a 当たり収量	kg	550	547	542	535	523	457
	収穫量	t	1,135,000	1,129,000	1,118,000	1,103,000	1,079,000	943,200
3	10a 当たり収量	kg	531	526	519	510	494	408
	収穫量	t	1,072,000	1,062,000	1,047,000	1,030,000	997,000	824,400
4	10a 当たり収量	kg	541	536	530	522	508	437
	収穫量	t	1,072,000	1,062,000	1,049,000	1,034,000	1,007,000	866,200
5	10a 当たり収量	kg	513	511	508	503	494	442
	収穫量	t	1,015,000	1,011,000	1,005,000	995,700	976,400	873,900
6	10a 当たり収量	kg	535	530	523	515	500	430
	収穫量	t	1,053,000	1,044,000	1,030,000	1,014,000	984,600	845,600
	対前年比	%	104	103	102	102	101	97

注：1 ふるい目幅別 10a 当たり収量とは、北陸の 10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別収穫量（子実用）とは、北陸の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

3 令和6年産の対前年比は、収穫量の対比である。

図2 県・作柄表示地帯別作況指数
(農家等が使用しているふるい目幅ベース)



注： 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する 10a 当たり収量の比率であり、県ごとに、過去 5 年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

【北陸地域の調査結果】

- 令和6年産水稻の作付面積(子実用)は19万7,000ha(前年産に比べ700ha減少)となった。
また、水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は17万5,800ha(前年産に比べ1,800ha増加)となった(表3参照)。
- 水稻の作柄は、5月下旬及び6月上旬にかけて気温が平年を下回ったことなどにより、全もみ数が「やや少ない」となり、登熟は8月以降の気温は平年を上回り、日照もおおむね確保され「平年並み」となった。また、9月下旬の大雨等の影響があったことから、10a当たり収量は535kg(平年に比べ△3kg)となった(表4参照)。
- 以上の結果、収穫量(子実用)は105万3,000t(前年産に比べ3万8,000t増加)となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量(主食用)は、93万8,800t(前年産に比べ4万4,800t増加)となった(表3参照)。
- なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は99となった(表4参照)。
- ふるい目幅別重量分布状況は、1.85mm以上の玄米の重量割合は96.3%、1.90mm以上は93.5%で、直近5か年平均値と比べてそれぞれ0.8ポイント、1.3ポイント低くなった(表5参照)。

表3 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量

区分	作付面積(子実用)			10a当たり収量			収穫量(子実用)			主食用作付面積 ④	収穫量(主食用) ⑤=④×②
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	前年産との比較		実数 ③=①×②	前年産との比較			
		対差	対比		対差	対比		対差	対比		
	ha	ha	%	kg	kg	kg	t	t	%	ha	t
北陸	197,000	△700	100	535	△3	22	1,053,000	38,000	104	175,800	938,800
新潟県	116,200	400	100	536	△6	25	622,800	31,100	105	101,400	543,500
富山県	35,000	△200	99	540	△7	12	189,000	3,100	102	31,200	168,500
石川県	22,300	△1,100	95	521	△2	3	116,200	△5,000	96	21,200	110,500
福井県	23,500	200	101	531	12	31	124,800	8,300	107	21,900	116,300

- 注：1 作付面積(子実用)及び主食用作付面積は、四捨五入しているため、県ごとの積上げ値が北陸値と一致しない場合がある。
2 ②10a当たり収量、③収穫量(子実用)及び⑤収穫量(主食用)は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
3 10a当たり収量の平年との比較は、10a当たり平年収量との比較である。
4 収穫量の北陸値は、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

表4 令和6年産水稻の作柄概況

区分	10a当たり収量 ①	農家等が使用しているふるい目幅で選別				作柄概況(平年比較)				
		最も多い使用割合の目幅	10a当たり収量		10a当たり平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	穂数の多少	1穂当たりもみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
			実数 ②	前年産との比較 対差						
	kg	mm	kg	kg	kg					
北陸	535	...	510	9	515	99	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
新潟県	536	1.85	515	13	524	98	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
富山県	540	1.90	515	4	519	99	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
石川県	521	1.90	495	△13	498	99	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
福井県	531	1.90	494	19	483	102	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み

- 注：1 ①10a当たり収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
2 ②10a当たり収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数については、県別に、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
3 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良・やや少ない」が98~95%、「不良・少ない」が94%以下に相当する。

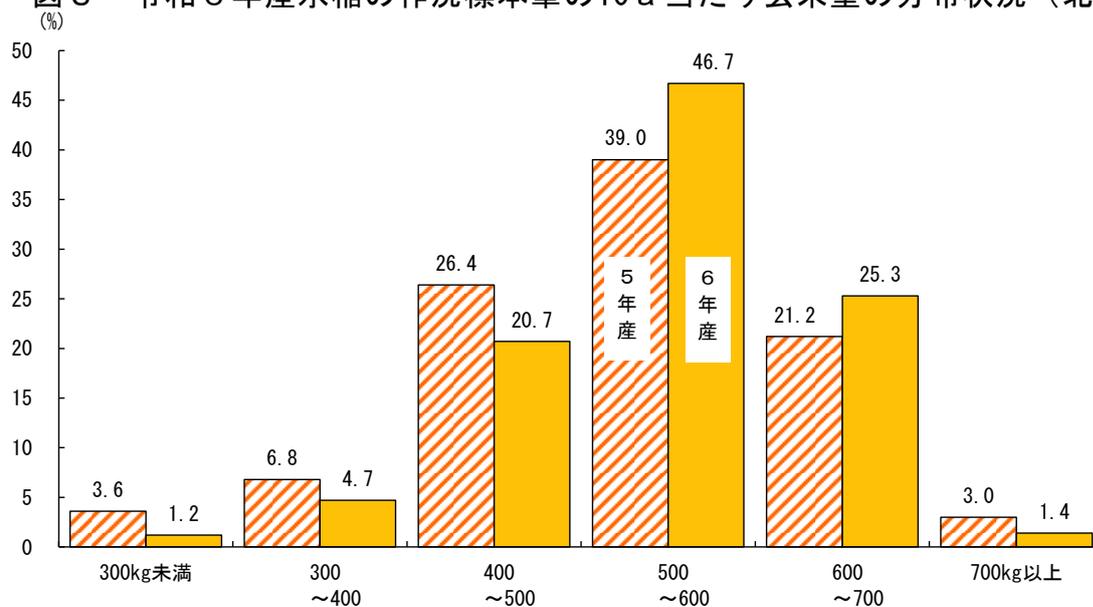
表5 令和6年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
北 陸	重量割合	100.0	0.9	1.3	1.5	2.8	13.2	80.3
	平均値	100.0	0.6	1.0	1.3	2.3	12.7	82.1
	対平均差(ポイント)	0.0	0.3	0.3	0.2	0.5	0.5	△ 1.8
新 潟 県	重量割合	100.0	1.0	1.4	1.6	3.1	13.9	79.0
	平均値	100.0	0.6	1.0	1.3	2.4	13.0	81.7
	対平均差(ポイント)	0.0	0.4	0.4	0.3	0.7	0.9	△ 2.7
富 山 県	重量割合	100.0	0.6	0.9	1.2	2.0	10.4	84.9
	平均値	100.0	0.6	0.9	1.2	2.2	11.7	83.4
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	0.0	△ 0.2	△ 1.3	1.5
石 川 県	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.2	2.2	12.3	82.7
	平均値	100.0	0.6	1.0	1.2	2.1	11.3	83.8
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	△ 1.1
福 井 県	重量割合	100.0	0.8	1.4	1.7	3.0	15.1	78.0
	平均値	100.0	0.9	1.3	1.6	2.8	14.0	79.4
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	0.1	0.1	0.2	1.1	△ 1.4

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

図3 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（北陸）



注：10a当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

表6 令和6年産水稻における農家等が使用したふるい目幅の分布
【令和6年産水稻作況標本筆農家からの聞き取り結果】

単位：%

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
北 陸		100.0	-	-	1.0	32.6	65.3	1.1
新 潟 県		100.0	-	-	1.6	57.2	39.3	1.9
富 山 県		100.0	-	-	0.5	9.8	89.7	-
石 川 県		100.0	-	-	0.5	38.4	61.1	-
福 井 県		100.0	-	-	0.5	2.1	95.8	1.6

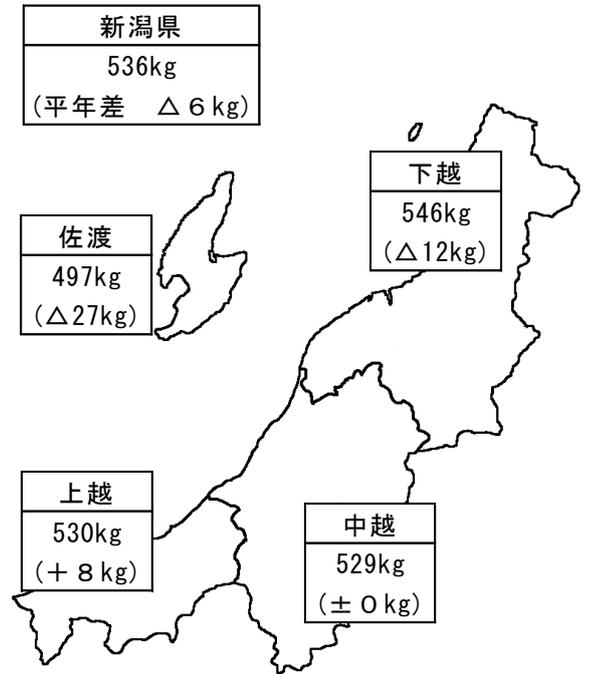
注：農家等が使用したふるい目幅の分布とは、水稻作況標本筆農家を使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものである。

【管内各県の調査結果】

1 新潟県

- (1) 水稻の作付面積（子実用）は11万6,200ha（前年産に比べ400ha増加）となった。このうち、主食用作付面積は10万1,400ha（前年産に比べ800ha増加）となった。
- (2) 5月下旬から6月上旬にかけて気温が平年を下回ったことにより全もみ数が「やや少ない」となり、8月下旬以降の日照が少なくなったものの気温が確保されたことから、登熟は「平年並み」となった。
これにより、10a当たり収量は、536kgとなった。
- (3) 以上の結果、収穫量（子実用）は62万2,800t（前年産に比べ3万1,100t増加）となった。このうち、主食用は54万3,500t（前年産に比べ2万9,400t増加）となった。
- (4) なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は515kgで、作況指数は98となった。

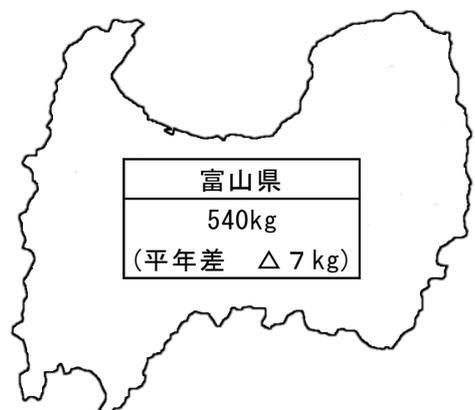
図4
新潟県の作柄表示地帯別
10a当たり収量
(1.70mmのふるい目幅ベース)



2 富山県

- (1) 水稻の作付面積（子実用）は3万5,000ha（前年産に比べ200ha減少）となった。このうち、主食用作付面積は3万1,200ha（前年産と同様）となった。
- (2) 5月下旬から6月上旬にかけて気温が平年を下回ったことにより全もみ数は「やや少ない」となったが、8月以降、総じて天候に恵まれたことや、全もみ数がやや少ないことによる補償作用により、登熟は「やや良」となった。
これにより、10a当たり収量は、540kgとなった。
- (3) 以上の結果、収穫量（子実用）は18万9,000t（前年産に比べ3,100t増加）となった。このうち、主食用は16万8,500t（前年産に比べ3,800t増加）となった。
- (4) なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は515kgで、作況指数は99となった。

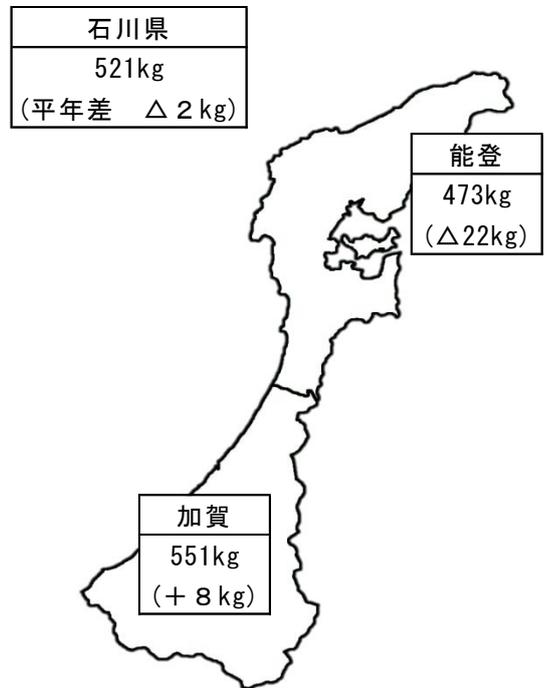
図5
富山県の10a当たり収量
(1.70mmのふるい目幅ベース)



3 石川県

- (1) 水稲の作付面積(子実用)は2万2,300ha(前年産に比べ1,100ha減少)となった。このうち、主食用作付面積は2万1,200ha(前年産に比べ400ha増加)となった。
- (2) 5月中旬以降、おおむね天候に恵まれたことから全もみ数は「平年並み」となり、8月以降の気温、日照が確保され、登熟は「平年並み」となった。また、9月下旬の奥能登豪雨の影響により収穫ができなかった地域が一部あった。
これにより、10a当たり収量は、521kgとなった。
- (3) 以上の結果、収穫量(子実用)は11万6,200t(前年産に比べ5,000t減少)となった。このうち、主食用は11万500t(前年産に比べ2,800t増加)となった。
- (4) なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は495kgで、作況指数は99となった。

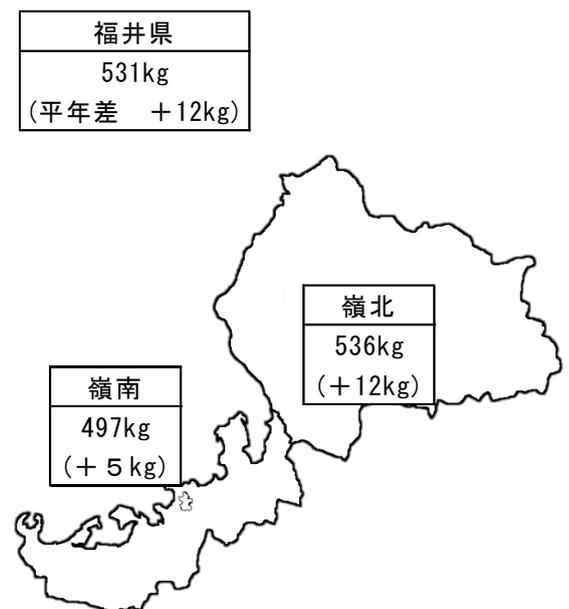
図6
石川県の作柄表示地帯別
10a当たり収量
(1.70mmのふるい目幅ベース)



4 福井県

- (1) 水稲の作付面積(子実用)は2万3,500ha(前年産に比べ200ha増加)となった。このうち、主食用作付面積は2万1,900ha(前年産に比べ400ha増加)となった。
- (2) 5月下旬以降、気温がおおむね平年を上回り日照も確保されたことから、全もみ数は「やや多い」となり、8月以降、天候に恵まれたことから、登熟は「平年並み」となった。
これにより、10a当たり収量は、531kgとなった。
- (3) 以上の結果、収穫量(子実用)は12万4,800t(前年産に比べ8,300t増加)となった。このうち、主食用は11万6,300t(前年産に比べ8,800t増加)となった。
- (4) なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は494kgで、作況指数は102となった。

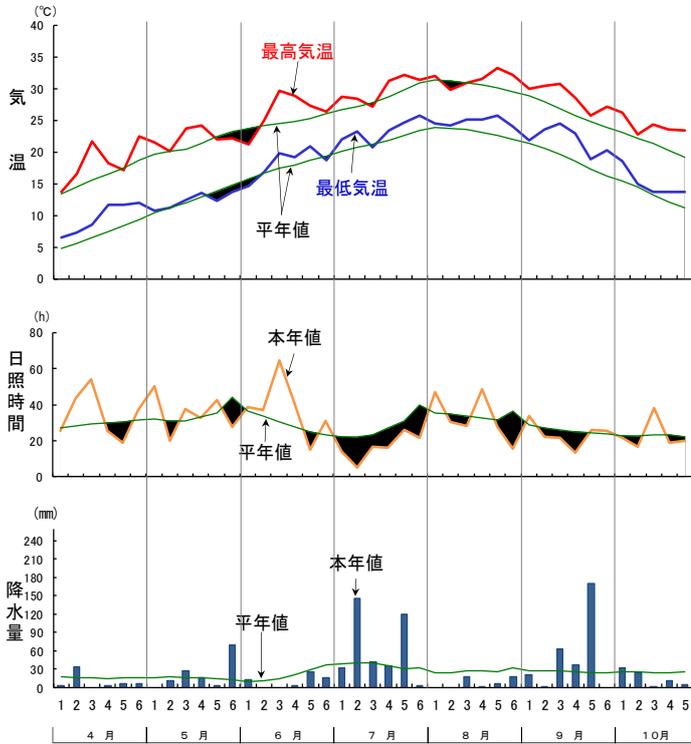
図7
福井県の作柄表示地帯別
10a当たり収量
(1.70mmのふるい目幅ベース)



◎関連データ
令和6年アメダス半旬別気象グラフ

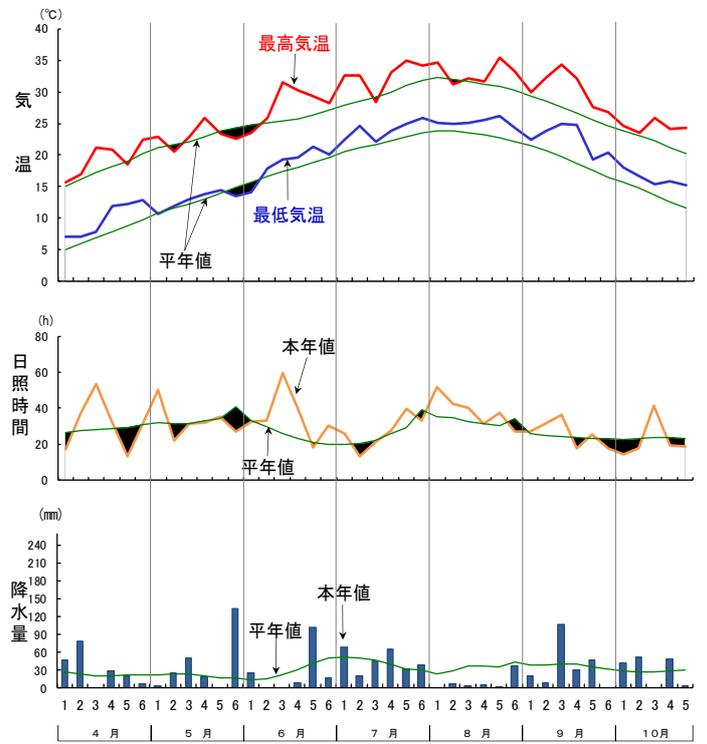
1 新潟

令和6年 アメダス半旬別気象グラフ(新潟)



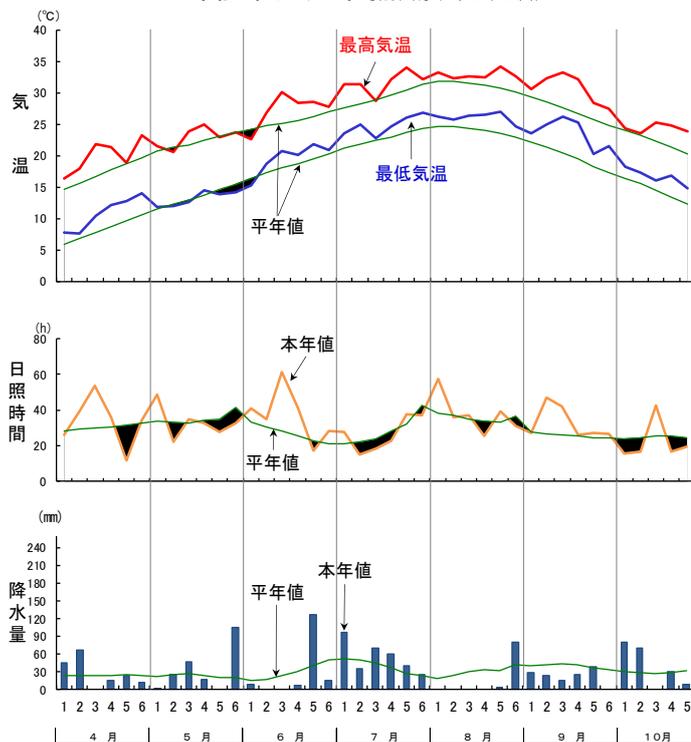
2 富山

令和6年 アメダス半旬別気象グラフ(富山)



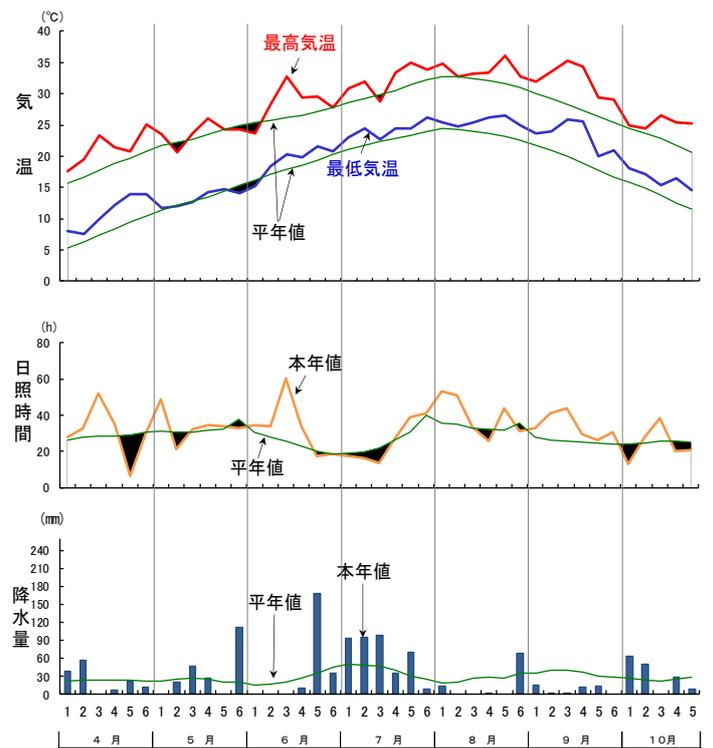
3 金沢

令和6年 アメダス半旬別気象グラフ(金沢)



4 福井

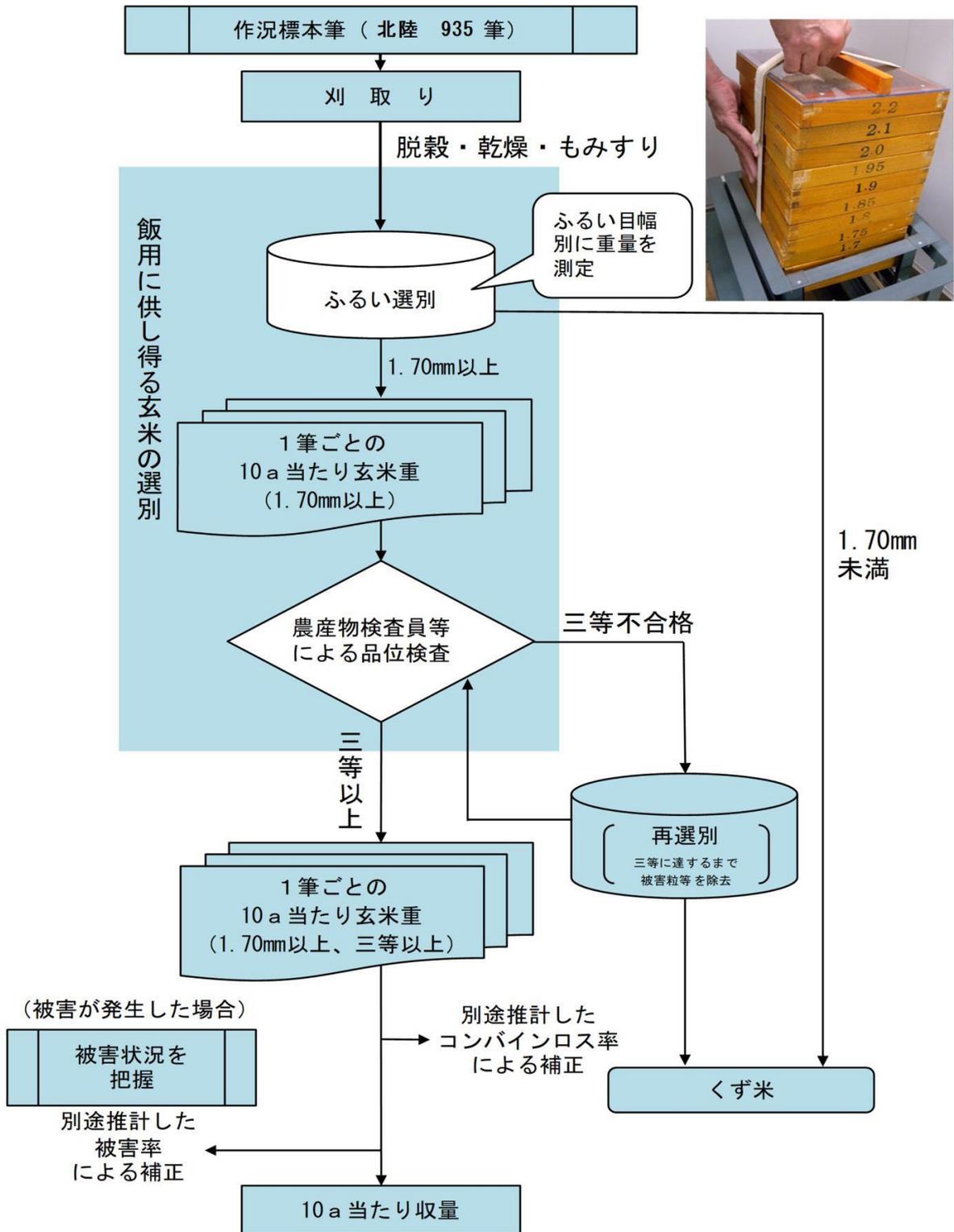
令和6年 アメダス半旬別気象グラフ(福井)



【参考1】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考2】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



【参考2】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場^{ふで}を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（北陸で935筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



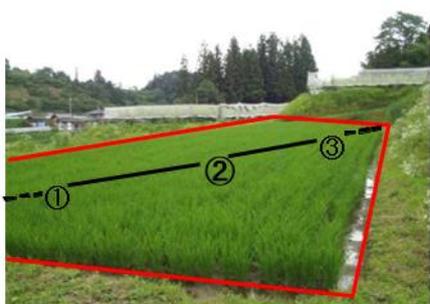
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（北陸で935筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】

https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/xlsx/suitou_20241200.xlsx

【調査の概要】

・面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稲調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 北陸の各種農林水産統計調査結果は、北陸農政局ホームページ「統計情報」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/>

- ・ 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ「統計情報」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/>

- ・ 本資料は農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y5

- ・ 本資料の確定した詳細な数値は、農林水産省ホームページに掲載（令和7年2月予定）します。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

お問合せ先

◎本統計調査結果について

連絡先：北陸農政局 統計部
生産流通消費統計課
電話：（代表）076-263-2161 内線 3646
（直通）076-232-4895

連絡先：北陸農政局統計部（新潟県担当）
電話：025-224-1441

連絡先：北陸農政局統計部（富山県担当）
電話：076-441-0340

連絡先：北陸農政局統計部（石川県担当）
電話：076-241-3175

連絡先：北陸農政局統計部（福井県担当）
電話：0776-22-3676

◎農林水産統計全般について

連絡先：北陸農政局 統計部
統計企画課 企画係
電話：（代表）076-263-2161 内線 3622
（直通）076-232-4892



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)
<https://www.e-stat.go.jp/>



5年に1度の一斉調査
2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬～令和7年2月末 農林業経営体調査
令和7年1月中旬～令和7年2月末 農山村地域調査（市区町村調査）
令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025

